

山 ゆり

11-12月号 No370 2016年11月1日

初号発行: 1972年12月25日

山ゆりの会

年会費1000円 (郵便口座00230-2-42601)

〒246-0025 横浜市瀬谷区阿久和西2-25-16 草野正昭

Tel/Fax: 045-364-6515 メール: VZM03024@nifty.com

URL: <http://yamayuri.d.dooo.jp/>



■9月山行 9/17 高尾山

蛇滝一葉王院一琵琶滝

参加者: 稲本 小野寺 長谷川 浜田 和田 遠藤 曾根 松田 細谷 西村 草野(11名)

蛇滝口は「高尾山にトンネルは掘らせない-圏央道反対運動」の拠点ともなった地点です。その運動を先頭に立って引っ張ってきた、「高尾山の自然を守る市民の会」の事務局長であった橋本さんと蛇滝口で合流、しばし話を伺う。

橋本さんは、昨年末、国連気候変動枠組

条約第21回締約国会議(COP21)に、NGOの一員としてフランスを訪問。滞在期間中、パリ郊外にある人口数万人のバニユー市の女性市長と懇談。以下橋本さんの話です。

「私は、高尾山で繰り広げられた大規模な公共事業である圏央道建設問題を紹介しました。日本では国や自治体が一方的に進める大型公共事業によって貴重な自然が壊されたり、多くの住民が土地を奪われたりします。裁判を提起しても解決せず、どんなに反対しても最後は国によって土地や私有財産が強制的に取り上げられます。」と紹介しますと、市長は驚いた表情でこう言いました。

「フランスでは、そのようなことはありえませんし、想像することもできません。バニユー市では、40年もの時間をかけてパリからの地下鉄路線を郊外のバニユー市まで延伸させるとともに環境先進自治体としての都市計画を作りました。都市計画を作るに当たり、私たちが心掛けたのは市民の声に丁寧に耳を傾けることでした。この事業計画の作成は市民と同じテーブルで話し合っただ度も何度も計画を立案し変更しながら練り上げたものです。最終的な事業計画案について、何とか全ての市民との合意を得ることができて、



9/17 高尾山

建設にこぎつけることができました。市民の合意なしでどうして計画を進めることができるでしょうか。バニユー市の主権者は市民です」。と彼女は胸を張りました。

日本の現状とは隔絶の感がありますが、かつてフランスも現在の日本と同じように、国民はお上のやり方に従えといった上意下達のシステムでした。現在のフランスの合意形成制度（PI=Public Involvement:住民参画）は、国民の長い運動の中で勝ち取られた制度であり、日本のPIとは似て非なるものです。以上橋本さんの話です。（K）

■ JR高尾駅9時集合だが山ゆりのメンバーがいない。一週間の長雨後、曇りの予報が青天となり人出が多い中、草野リーダーの姿を見つけ一安心。蛇滝口バス停で先発会員と圏央道反対運動をしてこられた地元の方二人に合流。経過報告受け以前は集会で賑わった梅林、頭上高く横切り高尾山トンネルに入る高速道路を見ながら暑い中を歩く。

昔は水量も多く、蛍見物、歌会等風流な舟遊び処であった小仏川を渡り、蛇滝コースを登る。集会参加のため何度も下った道だが、木陰でヒンヤリ、コース沿いの急流も透きとおり、長雨の後の瑞々しい高尾山の魅力を再認識。以前よりも整備された感じの山道で歩きやすいが、風もなく蒸し暑くてまいった。ひたすら登り小休止時に見下ろした山裾が思いのほか広々して美しい。頂上の雑踏を避け、たこ杉先の静かな広場で休憩。薬王院に参拝後昼食。

帰路はケーブル？の筈もなく、一号路の予測がはずれ枇杷滝コースへ。往復とも観光地化された高尾山ではなく、山岳宗教、修行の登山道？石が多く膝の疲れる急坂コースでした。2時前に高尾山駅到着。初心者向きといいながらも、あえて難コース、大汗かいてカロリー消費ができた一日でした。

（長谷川芳江）

■ JR高尾駅からバスで蛇滝口下車。圏央道反対集会会場になっていた梅園も装備されずっかり様変わり。高尾山にぽっかりと穴が空いた圏央道のトンネルと中央道に跨がる巨大な橋梁を見上げ、晴れ渡ってきた空と高尾の緑には似つかわしくない物が出来てしまい、存在感を鼓舞しているように見えた。蛇滝口付近の名水、トンネル工場の影響もなく豊かな水が樋から溢れ出ていました。蛇滝林道からの登り道。蜥蜴が自分と同じくらいの大きさのミミズを口にくわえ目の前を横切るのを見たり、私達の足音に驚いたのか草むらに逃げ込む蛇がいたり、ミズヒキの花、シュウカイドウも薄いピンクの花を咲かせ目を楽しませてくれます。

一時間位の登りでたっぷり汗をかき、林野庁殉職者慰霊塔前の広場へ。今日は山頂まで行かずここまで。昼食後まったり、ゆったりした時間をそれぞれ過ごしていると、道に迷った若い女性が二人。4号路にある吊り橋へ行きたいようです。そこはどうやら今流行りのパワースポットのようです。何も無い広場で、山ゆり一行が何の目的もなく何もせず、日常では味わ得ないゆったりとした時間を満喫していることを、説明してもどうやら理解不能のよう？でした！

下山はケーブル高尾山駅ビアガーデン目当ての長蛇の列を横目に琵琶滝コースへ。久しぶりの山歩きです。木の根に足を取られな



いよう慎重に。高尾山口駅無事到着。近くても遠くても、低くても高くても。やっぱり山はいいですね。(稲本なお子)

■久しぶりの高尾山、JR高尾駅からのバスを蛇滝口で降りると、見上げた遙か高い空中に、二本の道路が架かっていた。周囲の景色とは全く合いいれない巨大な建造物。高尾山をトンネルで抜けて、東名と中央道を繋ぐ高速道路だ。真下から見上げて、こんなもの物まで作ってしまう技術力に、正直、驚きも感じた。

何年か前まで、「高尾山にトンネルを掘らないで」の集会が開かれ、何度か参加した。皮肉にも、正にその集會会場の真上を、この高速道路が周囲を圧倒するように跨いでいた。

昼食後、ケーブルカーの頂上駅近く迄来ると、長蛇の列が出来ていて。何なのだろう？と。ビアガーデン(高尾山ピアーマウント)の13時のオープンを待つ人達だった。家族連れも多くて、入り切れるのか心配な程の混雑。途中の琵琶滝では、滝行する人の読経の音が滝の水音に混じって聞こえて来た。

薬王院の浄心門には「靈氣満山」と掲げられていたが、高尾山の現状は、それとは程遠い何でも有りの観光地になっている。「祈りのお山、高尾山」は、この先どんな場所になって行くのだろうか？ そんなことを考えながら、汗を拭き拭き高尾山口駅に向った。

(松田 雄二)

■花を求めて山歩き

4月上旬、幸手市権現堂に桜と菜の花を見に(秋はヒガンバナ)、中旬 クリーンハイクで行く寄に塔ノ岳-鍋割-櫟山へ下り土佐原のしだれ桜を見る。5月下旬、高尾山にセッコク見に、6号路倒木の為通行止め、1号路の木の高い所とケーブルの駅で見られた。サ

イハイラン、イナモリソウにも出会う。6月上旬 礼文島にレブンアツモリソウを見に、花が茶色くなってしまったものも多かったが辛うじて綺麗な花が残っていた。翌週 三つ峠にカモメランを見に、以前荒島岳で始めて出会う。調べると三つ峠で保護されていることが解る。7月上旬、田代山の湿原でツルコケモモ、帝釈山では盛りを過ぎたオサバグサの群落、7月下旬 白馬大池から雷鳥坂でリンネソウ、三国境-雪倉でユキクラトウウチソウ、一朝日岳への湿原ではアヤメ、ゼンテイカ。8月上旬 往復夜行バスで剣山のキレンゲショウマ、8月中旬 針ノ木-蓮華岳のコマクサ、船窪小屋-七倉ダムへと歩いて、ウメバチソウやマツムチソウなどの秋の花も。八ヶ岳のツクモグサや裏燧林道のトガクシヨウマにも会いたかったのですがツクモグサは5月末に花は盛りを迎え行きそびれてしまいました。来年には行きたいと考えています。体力維持を心がけて。(曾根弘子)

■昔、山小屋の管理人になれば、とあったことがあります。四六時中を木々に囲まれた、あるいは足下に雲海を臨める景色のなかで過ごせたら、という単純な考えだけで、ですが一。

それにしても昔の山小屋のおじさんて、(勝手におじさんに決めつけていますが)少々気難しかったり怒りっぽかったり(マナーの悪い登山者は怒鳴りつけていました)偏屈だったり一。(これも決めつけていますね)でも、ひと気のない昼下がりに寄ったりすると、黙って自分用のコーヒーを煎れてくれたりして、私にとって、小屋ってその山をも象徴する存在でした。

最近の小屋は様変わりして、まず仙人みたいなおじさんはまったく見かけず、代わりに若い人がテキパキとムダのない対応をするのを見ていると、まるでここは街のファスト

フード店か居酒屋か？とってしまいます。食事がまた素晴らしく、冷やご飯に佃煮などは語り草。今や生野菜にステーキか、焼き肉食べ放題と聞くに至っては、ここは何処？といった感じです。むか〜し行ったことのある山の変り用にも驚かされます。小さかった避難小屋は食事付きで、ふわふわの羽毛布団が売りのステキな小屋に、猛者が背負う巨大な横長のキスリングにぶっ飛ばされそうにな

りながら、小さくなって泊まった小屋は、淹れたてコーヒーにケーキセットが売りのロッジ風の小屋に！

自然 300%の山のなかで「食住」は街なかの快適さ。長生きはするもんだ、といったところですね。登りたい山、もう一度行ってみたい山と、夜な夜な地図を広げては夢は荒野ならぬ、稜線を駆け巡るこの頃です。

(小野寺美智子)

■ 11月：11月13日(日) 多摩丘陵ウォーキング 雨天決行 ㊦

晩秋の多摩丘陵ウォーキングです。

- ・集合：朝9時 小田急多摩線 永山駅
- ・持ち物：昼食弁当、山歩きの支度、

■ 12月：12月11日(日) 白山・巡礼峠 小雨決行 ★

1984年2月以来30年ぶりのコースです。今年最後の山行、ふるって参加ください。

- ・集合：朝8時30分 小田急線 本厚木駅
- ・持ち物：昼食弁当、山歩きの支度

■ 例会の予定

- ・11月15日(火)：11月例会
- ・12月13日(火)：12月例会

あとがき ・新潟知事選で柏崎刈羽原発再稼働に反対する米山氏が、再稼働を狙う自公候補を破って当選。再稼働ノーの新潟県民世論の勝利。・2020年以降の地球温暖化対策の新たな枠組み「パリ協定」が11/4に発効することになり、批准手続きが済んでいない日本は発効に貢献できないことが確定した。協定は55カ国以上の批准と、批准国の温室効果ガス排出量が世界全体の55%以上になることが発効条件。6日現在は73カ国、排出量は58.8%だ。パリ協定の発効が決まったことで、11/7から始まるCOP22の期間中に、パリ協定の第1回締約国会議(CMA1)も開かれる。批准国としての権利を持たない国はオブザーバーとして参加できるだけで発言できない。日本は世界第五位の温室効果ガス排出国でありながら、安倍内閣はパリ協定の発効に一貫して消極的姿勢をとり続け

てきた。今開催中の臨時国会の所信表明演説にはパリ協定の批准には一言もなし。二大排出国の米中をはじめ70か国以上が批准し11/4の発効が決まると、政府は急ぎ批准案を閣議決定し、開会中の臨時国会での承認を急ぐあわてようだ。米・中両国の批准の発表に迅速に反応したEUとは好対照だ。安倍内閣の環境軽視の姿勢が問われる。・TPPの国会審議が始まった。コメの輸入枠が増えても国が価格統制しているから米価の低下への影響はないと説明してきたが、実際は安く入っている疑惑が発覚。アメリカの時期大統領候補が反対しているTPPを何故そう急ぐのか？・白紙の領収書を平然とやりとりしている政府首脳、核保有発言を撤回しない防衛大臣発言などなど、国民をなめるなよ。

・石段の触れれば動く秋の蝶

(10/17 K)